

# 學小國民讀本

山中英二郎編

卷二

館藏書會育教本日大

|    |    |
|----|----|
| 三  | 二  |
| 六冊 | 六函 |

178  
5  
102

K1208  
2

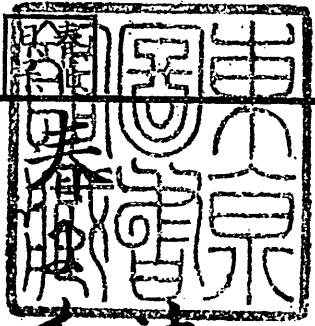
平井參閱  
山中英二  
郎編

東京教育  
書房  
錦森閣藏



昭和二十年二月十四日 内務省文部省 印刷

小學國民讀本卷二



連語 第一

平井參  
山中英二郎  
編 閱

おさく○日お  
なぶくなる○  
子どもおたこ



とあげる ○ むすめおまりを  
つく

連語 第二

夏雷  
雨夜

夏がくる ○ 雷  
がなる ○ 雨が  
ふる ○ あつく  
なる ○ 夜がみ



おかくなる ○ 子どもがみつ  
とおよぐ

連語 第三

秋風  
虫霜  
人



秋よなる ○ 風  
がふく ○ 虫が  
なく ○ すー  
くなる ○ 霜が

ふる ○ 人おもみちをみる

連語 第四

冬木  
雪水

冬よなる ○ 日おもみぢかな

る ○ さむくな

る ○ 木のこゑ

おちる ○ 雪の

ふる ○ 水おこ



なる ○ ひやくーやうおいね  
とある

連語 第五

山海  
火鏡  
綿

山はたあるし ○

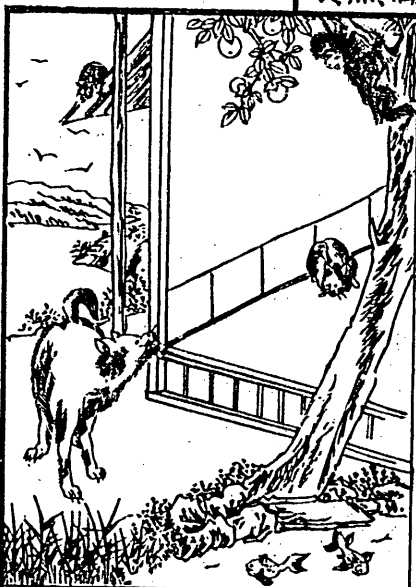
海はふるし ○

火はあつし ○

水はつめたし



犬猫  
鳥魚  
猿猪



○銕はかたくりておもし○  
 綿はやはらかくりてゐるし  
 連語 第六

犬お不ぬる○  
 猫おねむる○  
 ねずみおるけ  
 る○鳥おとぶ

官大  
兵工  
家左

○魚およぐ○猿はかりこ  
 ー○豚はかるるなり  
 連語 第七

官おんぶやく  
 ーよゐいづる  
 ○兵たいおち  
 やうれんとす



る ○大工の家をたてる ○左  
官ぶかべをぬる

連語 第八

屋菜  
鯛本  
筆墨



や不屋ぶ菜と  
うる ○さあな  
屋ぶ鯛をうる  
○本屋ハ本と

上着  
帶袴  
羽帽  
子下

あきなひ筆屋ハ筆墨をうる

連語 第九

おむんときる ○上着とき

る ○帶をしめ

る ○袴をはく

○羽おりをき

て、ひもとむす



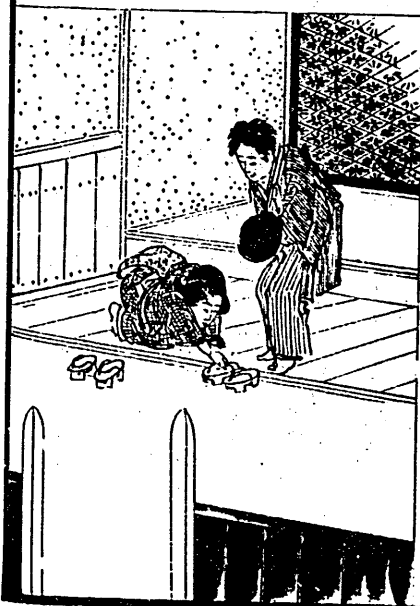


く ぶ ○ 帽子をふり、下たをは

連語 第十

客茶  
菓物  
門

人ぶきゐる ○  
客ふゐる ○  
茶を出どす ○  
菓子とすゝむ



戸飯  
朝早

○ はき物をななし門までお  
くる

連語 第十一

戸をあける ○ ね  
どこをたゝむ ○  
さうちとする ○  
飯をくふ ○ 人





朝早くおきてはとらく

連語 第十二

店、夜、仕事

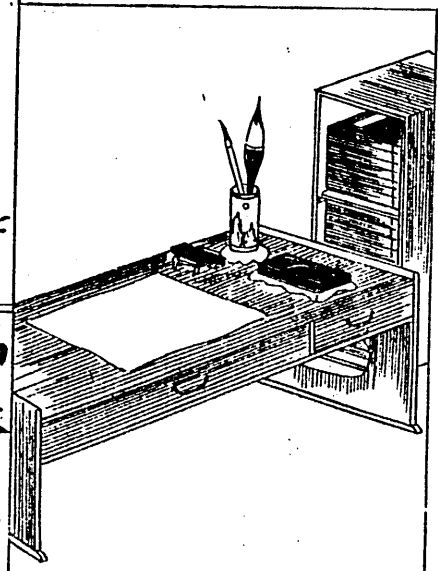
日ぶくれる ○店を  
ーめる ○戸を立て  
る ○あゐりをつけ  
る ○人ぶ夜なべの  
仕事とする



紙、色、硯、机、太、薄、厚、細、石、黒、白

第一課

紙のいろは白し ○墨の色は  
黒し ○硯は石にてつくり机  
は木にてつく  
る ○筆に細き  
あり太きあり  
本に厚きあり

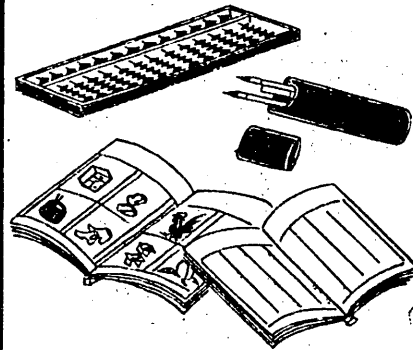


薄きあり

第二課

筆にて字を書きろるばんに

字、書、  
知、形、



て物をかろふ  
○字をよみて  
事を表り書を  
みて形を知る

○本をやぶるべからず ○紙  
筆墨などをろまつにすべか  
らず

第三課

晝はあかるく夜は暗し ○日  
の出るより日の入るまでを  
晝といひ日の入るより日の

晝、暗、  
入、眠、

出るまでを夜  
といふ○晝は  
はたらき夜は  
眠る



第四課

日の出づるかたを東といひ  
日の入る方を西といふ○朝

東、西、南、北、  
方、向、天、地、  
朝、天、地、



日に向ひて右  
の方を南とい  
ひ左の方を北  
といふ○天は

上にあり地は下にあり

第五課

この小兒は本をよみかの小

小兒、正、丁、  
讀、寧、

善人  
學問  
怠惡

學問の善人 卷一

金沢藩校

兒は字をなら  
 ふ○本をよま  
 ば正しく讀む  
 べし字をなら  
 はゞ丁寧に書くべし○がく  
 もんをはげむ小兒は善き人  
 となり學問を怠たる小兒は



娘習  
衣服  
猫靴  
戯見  
樂

惡しき人となる

第六課

この娘はろるばんを習ひか



の娘は衣服を  
 ぬふ○かの娘  
 のうしろに猫  
 ありこの娘の

外國代賣

十 帛麻園成

ろばにまりあり○猫は鞠に  
たはむるゝをたのしみ娘は  
猫の戯るゝを見て樂む

第七課

これは善き小兒なり○父母  
のまへに手をつきてつゝし  
みて其仰を聞き居れり○汝

父母其手  
仰聞汝居  
等命必順

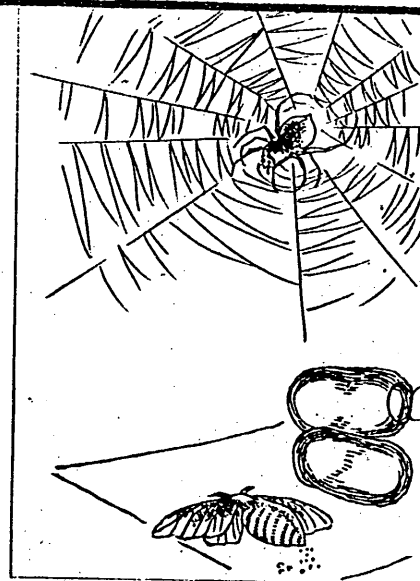
等もこの小兒  
の如く父母の  
命には必ずよ  
く順ふべし



第八課

かひこは人のために絲をは  
き蜘蛛はたのれが食を得んと

絲蜘蛛  
食得  
巢故  
蟻愛



して巢をつく  
る○故に蠶は  
人に愛せられ  
蜘蛛は人に愛せ

られず

### 第九課

松、杉、もみびのきは家をつく

松、杉  
家用

梅、櫻、庭、花、葡萄、食料、菓

るに用ふる木  
なり○梅、櫻、ふ  
ぢ、やまぶきは  
庭のながめに  
供ふる花なり○  
葡萄、梨、りん  
ご、みかんは人  
の食料となる  
菓なり



皆坐 老我 聞我 教又 時昔 奇語

第十課

三人の小兒あり○皆坐して  
老人の話聞き○老人は



我によき事を  
教ふるものな  
り○又時とし  
ては昔の奇ら

童竿 蜻蛉 逐鎌 持畑 雑草 刈

しき話をも語れり  
第十一課

一人の童兒は竿をもちて蜻  
蛉を逐へり○  
一人の童兒は  
鎌を持て畑の  
雑草を刈れり





○いづれが善き童兒にして  
いづれが惡き童兒なるや

第十二課

牛、馬、早、鼠、牙、尾、  
走、犬、角、長



牛は歩むこと  
ねろし○馬は  
走ること早し  
○犬は猫をか

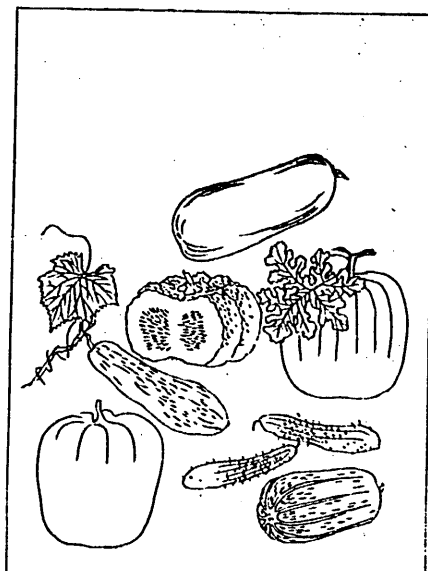
瓜、青、桑、胡、西、  
黄、真、食、鹽、冬

み猫は鼠をとる○牛には角  
あり馬にはたてがみあり○  
犬と猫とにハするごき牙あ  
り○鼠には長き尾あり

第十三課

まくは瓜は黄にしてきうり  
は青し○真桑瓜はなまにて

食し胡瓜は鹽  
につけてくら  
ふ○西瓜へち  
またうなす冬  
瓜へうたんゆふがほは皆瓜  
なり



第十四課

學校教師來入生徒椅子前讀命背  
決書禮子徒來師校



學校に教師入り來れり○生  
徒はみな椅子をはなれて其  
前に禮をなせ  
り○教師は我  
に讀み書きろ  
るば人を教ふ  
る人なり○教師の命には決

して背くことなかれ

第十五課

學校にゆきて物を學び家に

かへりてふく

しふす○復習

を怠たれば忘

れやすく復習

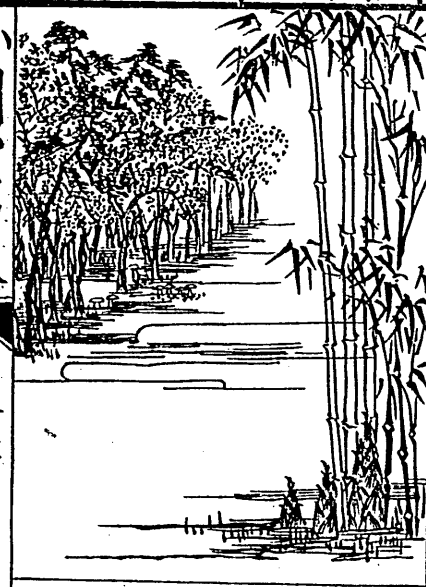


物家 復習 怠忘 効能

を勤むれば能くたほゆ○物を忘るれば學びたる効なし

第十六課

林多 竹生 所藪



東の方に林あり西の方にやぶあり○木の多くたひたる

ところを林といひ竹の多く  
生ひたる所を藪といふ○林  
にはきのこあり藪には筍あ  
り

第十七課

まことは善き事なり○いつ  
はり悪き事なり○見たる

誠偽

事を見たりといふは誠なり  
○聞かざる事を聞きたりと  
いふは偽なり○善き人は誠  
をいひ悪き人は偽をいふ

第十八課

坐敷に志やうじをたて床に  
かけ物をかく○畫をかきた

坐敷 床物 畫天 井張 疊土

るからかみあ  
り字を書きた  
るがくあり○  
天井は上に張  
りたゝみは下  
に敷く○人は  
畳にすわり犬  
は土間にねむ  
る



松梅  
柳葉  
堅緑

第十九課

松のろばに竹あり○梅のか



たはらに柳あ  
り○松にこま  
かき葉あり竹  
に堅きふしあ  
り○柳の葉は  
緑に梅の花は

白し

第二十課

大なる鉢には牡丹をうゑ小

さなる鉢は

ばらを植ゑた

り○鉢の傍に

あるハおよろ



大鉢 牡丹 小鉢 傍に 露如水 器

なり○如露は草木に水をやる器なり

第二十一課

山は遠く海は

近し○山の下

に森あり森の

前に村あり○



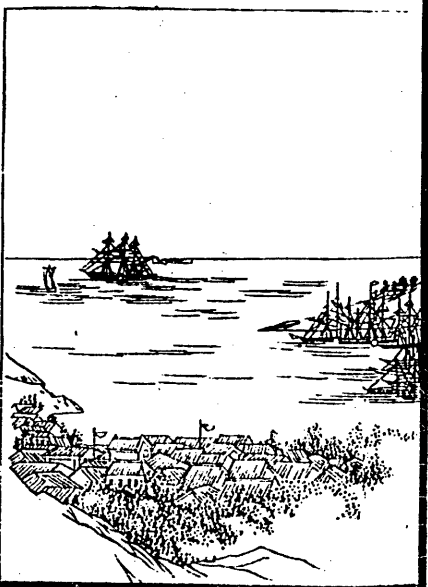
山 遠く 海 森 村 近 風 高 波 鳥

中央船所、沖港、陸地

海の中に岩あり岩の上に鳥あり○風なき日は波しづかに風ある時は波高し

第二十二課

下の圖を見よ○圖の中央にある人家の多きところは町なり○右のかたの船のあつ



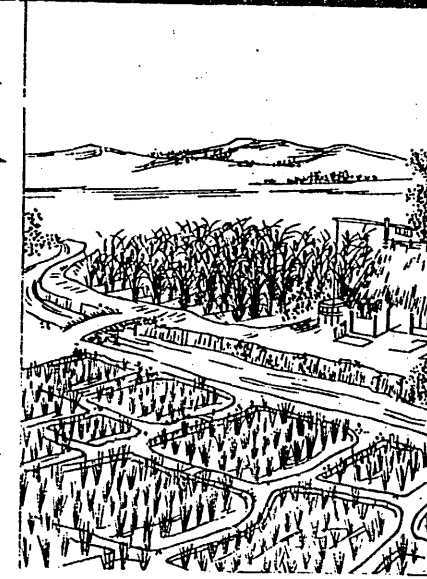
まりし所は港なり○左の方の船のはしる所は沖なり○沖は海の陸地をはなれて遠き所をいふ

第二十三課

稻、麥、米、粳、料  
田、畑、皆、糯

學國語讀本 卷二

金沢府



大麥と小麥とあり○米も麥も皆人の食料なり

稻は田につく  
り麥は畑にま  
く○米に糯と  
粳とあり麥に

第二十四課

父、兄、等、事、妹、愛、者、母、姉、目、弟

父、母、お、い、ば、い、を、お、を、ば、兄、姉、等、を、め、う、へ、の、人、と、い、ふ、○、目、上、の、人、に、い、よ、く、事、ふ、べ、し、○、弟、妹、を、め、し、た、の、人、と、い、ふ、○、目、下、の、者、を、ば、能、く、愛、す、べ、し



小國式讀本 卷二 二一 帛本用紙



縫針、短針、些、置、用、収、棄、細、曰、

第二十五課

母は娘に縫ものを教へ居れり  
○母の曰く縫物をなすに



正しく針をつかふべし  
○又細かききれ短き糸もみだり

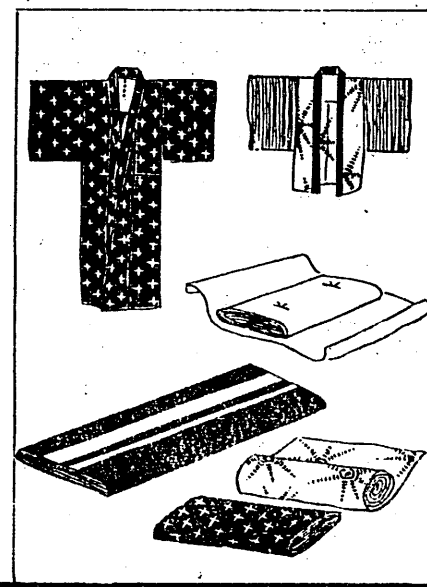
木綿、麻、絹、羅、紗、暖、美、襦、半、

に棄つべからず  
○かゝる些細なるものも収め置けば時にのぞみて大なる用をなす事ありと

第二十六課

木綿と麻とあり  
○又絹と羅紗とあり  
○木綿は暖かく麻

はすゞし ○ 絹  
 ハ美をしく 羅  
 紗はつよし ○  
 木綿にて 繻絆  
 をつくり 麻にて かたびらを  
 つくる



第二十七課

晴草履 雨草履 駄鼻緒 作鼻緒 革布

晴たる日には草履をはき雨  
 ふる時は下駄をはく ○ 草履  
 は藁にて つくり 下駄は木に



て作る ○ 草履  
 にも下駄にも  
 はなをあり ○  
 鼻緒に紙と布

と革とあり

第二十八課

桃、栗、柿、李、  
熟、味、害、  
類、体

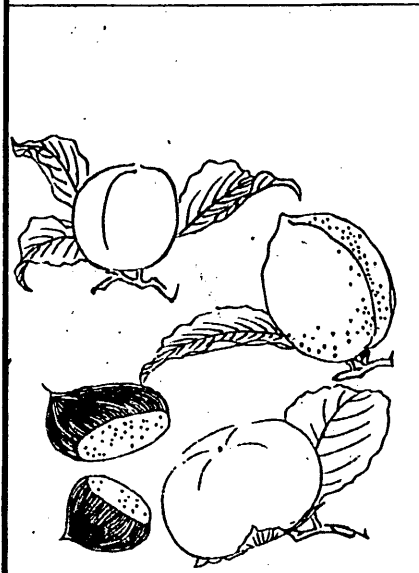
桃と李とは夏おゆくし栗と

柿とは秋熟す

○桃李栗柿の

類をくだもの

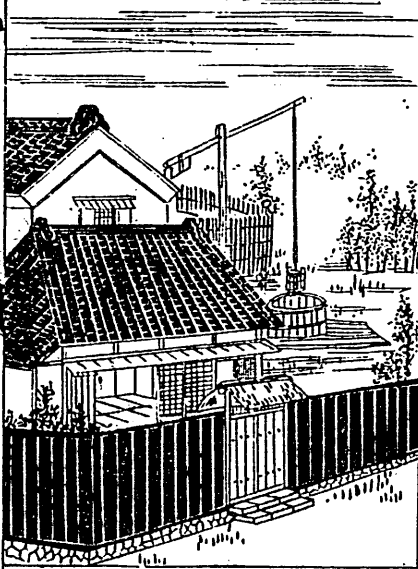
といふ○菓の



熟せざるは味あしくして體  
に害あり

第二十九課

門、脇、垣、釣、汲、  
藏、塀、井、瓶



家の前に門あ  
り○家のうし  
ろに藏あり○  
門の脇に塀を

つくり藏にろひて垣をゆふ  
○垣のうちに井あり井の中  
につるべあり○釣瓶は水を  
汲む器なり

第三十課

春はあたゝかに夏は暑し○  
秋はすいしく冬は寒し○春

暑寒  
長短  
寒暑  
開落

の風はやはら  
かく秋の風は  
暴し○夏の日  
は長く冬の日  
は短し○春夏は花開き秋冬  
は葉落つ



小國民讀本卷二終

V.120.8

學園日誌 卷三

金糸原

明治十八年十二月廿六日版権免許  
同 十九年四月十日出版  
同 二十年一月廿五日訂正再版御届

定價金九錢

編者

京都府平民

山中英二郎

東京目黒區馬喰町三丁目壹番地寄留

出版人

東京府平民

石川壽々々

東京目黒區馬喰町三丁目壹番地

發兌人

石川治兵衛

同所